



森林×脱炭素 チャレンジ2023 募集

2023.3.1 >>> 5.31

※応募者登録は5/26(金)17時まで!

日本の国土の3分の2を占める森林を適切に整備・保全することは、森林のCO₂吸収量の確保・強化を推進し、2050年カーボンニュートラルの実現につながります。

このため、森林の適切な整備・保全に貢献する企業や団体等の優れた取組を顕彰し、更なる取組の拡大を図ります。



2022年グランプリ（農林水産大臣賞）アサヒグループジャパン（株）アバマキの林（広島県三次市）

応募対象

令和3年度及び令和4年度に、以下の取組を行った企業・団体・個人・地方自治体

自ら又は支援をして森林整備に取り組んだ

森林由来J-クレジットを無効化した

森林づくり部門

<募集内容>

- 1 整備した森林の1年間のCO₂吸収量
- 2 森林整備に関する取組内容

J-クレジット部門

<募集内容>

- 1 無効化したJ-クレジット量（CO₂吸収量）
- 2 無効化したJ-クレジットに関する活用内容・効果

新設

外部有識者による審査委員会において受賞者を選定

受賞者は
13件以内

グランプリ（農林水産大臣賞）

全応募者から1件

+

優秀賞（林野庁長官賞）

<森林づくり部門>
9件以内

<J-クレジット部門>
3件以内



応募のメリット

メリット
01

マークで自社の
取組をPR!

森林づくり活動等を通じて脱炭素に貢献する証として「グリーンパートナーマーク」（左上の図）をPRにご使用いただけます。

メリット
02

林野庁が皆様の取組
を発信!

応募者のCO₂吸収量や取組内容等について、森林・林業白書や林野庁ウェブサイト、SNS等を通じ広く発信します。

メリット
03

林野庁内に
木製銘板を掲示!

さらに、グランプリ・優秀賞の受賞者は、林野庁庁舎内に応募者名とCO₂吸収量を刻印した木製銘板を設置します。

応募にあたっては、以下の内容を提出していただきます

森林づくり部門

応募者

森林整備を支援した者等

森林整備に対し、
・ 資金拠出などの金銭的支援
・ ボランティアなど人的支援
・ 資材の提供など物的支援
を実施した企業・団体等

所有林を自ら整備した
企業・団体等



森林整備

※請負や委託契約による森林整備について、
請負者や受託者は応募できません。

① 整備した森林の1年間のCO₂吸収量

林野庁長官通知の算定方法に基づき、応募者が自ら算定した吸収量
または、各都府県独自のCO₂吸収量の認証制度等で算定された吸収量

② 森林整備に関する取組内容

森林整備に取り組む背景・目的

- ・ 森林整備と、自社の事業内容や企業理念との関係
- ・ 企業等としての脱炭素やSDGsに向けた森林づくりの考え方 など

森林の循環利用へ貢献しているか

- ・ 森林整備により産出された木材を有効活用し、山元への収益向上に貢献
- ・ 地域の林業事業者と協力して、再生林の低コスト化を実現 など

山村地域の振興に貢献しているか

- ・ 地域の事業者と協力し、森林資源を活用した地域内の経済循環を実現
- ・ 地域内外から参加者を招いた森林づくりイベントで、地域住民と交流
- ・ 地域の子ども達を対象とした自然体験や木育活動などの実施 など

森林の有する公益的機能発揮に貢献しているか

- ・ 動植物の生育・生息場所を確保するなど生物多様性保全に貢献
- ・ 文化財修復や伝統工芸品の材料を供給し、伝統文化の継承に貢献 など

J-クレジット部門

応募者（共同申請）

クレジットの購入者

温室効果ガスを排出する事業者
地域貢献に関心の高い企業等

オフセット
(無効化)

直接取引 or 仲介取引

クレジット 販売仲介事業者

J-クレジット・プロバイダー、
金融機関等

クレジットの創出

プロジェクト実施者

地方自治体、民間企業、
森林組合、林業公社等

① 無効化した森林由来J-クレジット量

J-クレジット登録簿システムから入手可能な無効化通知書に記載のある、
一つのプロジェクトに由来するJ-クレジット量 (CO₂吸収量)

② 無効化した森林由来J-クレジットに関する取組内容・効果

森林由来J-クレジットを選択した理由・目的

- ・ 森林整備と、自社の事業内容や企業理念、SDGs達成への取組との関係
- ・ J-クレジットの購入を通じて森林整備に貢献することへのコミットメント など

クレジットの活用方法・計画等

- ・ 自社の事業活動等における排出量をオフセット
- ・ オフセット付き商品等を販売し、消費者の温暖化対策への貢献を後押し
- ・ 毎年の森林整備を支援できるよう、継続的にクレジットを購入 など

クレジット購入による森林整備等への貢献

- ・ クレジット収入により、長年手つかずだった森林の間伐を実施
- ・ 収入が向上したことで、再生林や林業機械など新たな投資が可能に
- ・ 森林信託事業、ICT技術の導入など新たな取組をスタート など

クレジット購入をきっかけとした森林・林業、地域への貢献

- ・ プロジェクト実施地域での社員研修やイベントの実施
- ・ プロジェクトで生産された木材を社屋や店舗で活用 など



適切に整備・保全された森林は
SDGsの達成に貢献します！

応募方法の詳細はこちら。

昨年の受賞者の取組もご覧いただけます！

森林×脱炭素チャレンジ事務局（林野庁企画課）
Tel 03-3502-8036

